

堀口 一弘 氏

(高校10回卒)

神奈川県立足柄上病院元院長

大井町生涯学習センター医学講座講師



＜経歴＞

- 1964年 3月 横浜市立大学医学部卒業
- 1964年 4月 小田原市立病院インターン
- 1965年 4月 横浜市立大学病院第一外科入局 (一般外科、心臓血管外科専攻)
- 1971年 4月 神奈川県立成人病センター (現癌センターX 消化器外科専攻)
- 1975年 4月 神奈川県立足柄上病院勤務 (外科)
- 1994年 4月 神奈川県立足柄上病院 病院長
- 2005年 同病院顧問、相談役 (～2023年) この間、県庁内健康管理センター、日本エイズ財団カウンセラー、日本医師会産業医などにも従事
- 2018年 4月 湯河原町民大学学長
- 2024年 老健“悠々”施設長

＜学位、資格等＞

- 2009年 春 瑞宝小綬章受賞
- 2010年 春 神奈川県医師会保健衛生功労賞

＜これまでの主な活動内容や心に残る職務上のエピソード＞

医師になりたての若い頃は、外傷 etc 一般外科を中心に心血管疾患、小児外科領域、脳外科、麻酔学、甲状腺疾患等あらゆる疾患の診断学、手術中心の治療学に専念し、特に癌疾患の拡大根治手術に关心を持ちました。

食道癌、膵臓癌の手術を自力でできるようになりたいと願いました。しかしながら、外科医10年を経過した頃、治療不可能な疾患がたくさんあり、緩和医療にも目覚めました。

＜高校時代はどんな学生だった？＞

比較的生真面目な学生でしたが、ラジオ等で英会話を勉強しておりました。ダンス教室にも通いました。

高校1年の時、AFSのアメリカ留学試験（全国公募）を受け、筆記試験では20名に選ばれたのですが、次の面接試験で落選てしまいました。

高校3年の時、茅ヶ崎の自動車運転試験場で教習を受け、実地試験ではパスしたのですが、筆記試験に失敗し、2度目の筆記試験を受けました。

大学受験では、文科系大学入試は失敗し、親から強いられた医学部受験では一学年40名中一番でパスしました。

＜在校生・卒業生（後輩）へのメッセージ＞

本格的に医師の職種に目覚めたのは学問的にはのめり込んだ時期もありましたが、医療の現場ではいくら一生懸命頑張っても治療しない疾患がたくさんあり、疾患だけを対象にするのではなく、人間全体を洞察して対処することが大切であることを悟りました。

ホスピスの父といわれる日野原先生とも親しくなり、中井町の日本最初の独立型ホスピスの理事も11年間務めさせていただきました。

人生の最終段階、高齢者の介護施設、老健“悠々”の施設長を約1年数ヶ月勤めさせていただきましたが、超高齢少子多死時代、医療と介護の密接な関係はとても大切です。

在校生、卒業生の皆さんにたくさん遊んで学んで、いろんなジャンルの知識をたくさん持ち、また多くの外国人とも交流を持ち、人間性豊かな人生を目指してください。

最後に「吾唯知足」という言葉をお送りいたします。県立足柄上病院に非常勤医師として在籍していた時の患者さんが私に書き残してくれた言葉です。座右の銘にされていたなかなか味のある文言です。意味合いは皆さんご自分で勉強してください。